

【生薬名】 蒼耳子、*XANTHII FRUCTUS*

【起源植物】 オナモミ、*Xanthium strumarium*、



【科名】 キク科 *Compositae*、

【別名】 卷耳、臬耳ヅ、胡臬コシ、地葵；神農本草經  
尾奈毛美、トツキ、ホシダマ

【薬用部分】 成熟果実

【主成分】 脂肪油、サポニン、アルカロイド、タンパク質、VC

【薬性】 気味は苦辛温、帰経は肺に属す、有小毒

【効能】 ●祛風散湿・通鼻竅

●解熱、発汗、鎮痙薬として風寒頭痛、鼻炎、蓄膿、リウマチ、四肢拘攣などに応用する

●祛風、療湿の薬で、能く散じ通す作用がある。上は頭頂に達し、下は脚膝に行り、内は骨髓に通じ、外は皮膚に透る。それ故頭痛、鼻炎、風湿疼痛、四肢や膝の不利、風疹、疥癬などの諸証に応用する

●慢性鼻炎や慢性蓄膿症に1日10gを煎服する、辛夷を併用する

●風邪で頭痛発熱、鼻閉、関節痛に1日6～13gを煎服

●新鮮な葉の汁は湿疹疥癬虫さされに患部に塗ると良いという

●蒼耳子を搾った油は疥癬などの皮膚瘙痒症に用いる

【出典】 ●治風頭寒痛。風濕周痺。四肢拘攣痛。惡肉死肌。久服益氣。耳目聰明。強志輕身。(神農本草經中品)

【備考】 ●材材ミの果実は材ミの代用で材ミ比べると粗悪品である

●蒼耳子はわずかな毒性があり多量の使用は注意が必要  
中毒症状は悪心・嘔吐・低血圧・腹痛である

●中国では食用油を取るために大規模に栽培されている

【処方例】 ●鼻炎丸、蒼耳子散